

第3章

重点プロジェクト

1. 重点プロジェクトとは
2. 重点プロジェクトの展開

1. 重点プロジェクトとは

重点プロジェクトとは、直方市のよりよい環境づくりを目指して、環境保全行動計画の計画期間中に重点的な取り組みを進めるプロジェクトです。

①取り組みやすいこと、②取り組みによる改善効果が大きいこと、③取り組みの進み具合（効果）が評価（確認）しやすいことを踏まえ前期計画の総括を行い、次の二つを選定しました。

- 環境学習プロジェクト
- 循環型社会形成推進プロジェクト

2. 重点プロジェクトの展開

(1) 環境学習プロジェクト

<行動指針>

わたしたちの生活は、清らかな水や大気、緑豊かな山々に囲まれ自然の恵みを受けて暮らしている一方で、大量生産、大量消費の現代社会は二酸化炭素を排出することにより地球温暖化を招き、近年、集中豪雨や台風の強大化などの自然災害に見舞われています。

この他にもたくさんの環境問題を抱えており解決していくために、さまざまな取り組みが行われていますが、こどもたちの環境教育も重要な取り組みのひとつです。少子高齢化社会の中、数少ないこどもたちが環境問題を知ること、考えること、取り組むことは、わたしたちが日常の生活の中で使用する車や家電製品を動かすために必要なガソリンや石炭などの資源を確保することと同様に、これからの環境を守っていくための貴重な人材資源です。現在は小学校高学年を中心に環境学習を行っていますが、この活動を低学年まで拡大し、人材を育成していきます。

<基本方針>

今般の地球温暖化やごみなどの様々な環境問題について、環境授業を通して学んだり、環境関連施設へ見学に行き直接触れて知識を得たり関心を引くことで保全活動の必要性を認識させ、こども一人ひとりができる活動をみずから見つけ行動していきます。

また、学んだ知識や活動内容について、学校全体で情報や問題を共有し、小学校低学年へも環境活動の意識を持たせることにより、日常生活で実践してもらおうなどして人材を育成していきます。

<対象者>

小学校全学年

<事業の進め方>

【令和2年度】

① 関係機関と協議

- ・ 環境授業および環境活動の実施について各関係機関と協議します。

② 教材作成、資材準備

- ・ 環境学習で使用する教材の作成や必要な資材を準備します。

③ 日程の調整

- ・ 環境授業および環境活動の日程などを調整します。

【令和3年度以降】

① 環境授業の実施

- ・ 市内小学校と調整し、各学校の対象学年に沿った環境授業を行います。この授業を通して、環境問題が一部の範囲や社会だけの問題に限らず、こどもたちの生活にも深く関係していることを伝え、解決するための取り組みを考え、見つけ出す機会にします。また、必要に応じて、内容の充実や種類を増やしていくことで、環境授業の質の向上を図っていきます。

環境授業の種類（例）

- ごみとくらし
- 地球温暖化問題
- グリーンコンシューマー運動※1
- 全教科の環境問題の学習をアドバイザーなどで参加支援

※1 グリーンコンシューマー（Green-Consumer）とは、訳すると「緑の消費者」の意。この「緑」は「環境にやさしい」を意味しており、買い物をするときに、できるだけ環境に配慮した製品を選ぶことによって、社会を変えていこうとする消費者のことを言う。

② 環境活動

- ・ 夏休み期間などを利用し、学童クラブ所属の小学生を対象に環境活動を実施していきます。こどもたちが楽しみながら無理なくできる活動を行い、普段の生活や学校授業に反映していけるよう取り組みます。

環境活動（例）

- 環境関連の施設見学
- 拠点回収に資源物の排出を手伝う

- ごみの排出を手伝う
- 地域の清掃活動
- 夏休みの自由研究として環境問題を調べる

③ 活動報告

- ・ これまで学習してきた環境問題について、こどもたちの活動や調べた内容を市報や直方市公式ホームページを通して発表します。こどもたちの取り組みを多くの方に知ってもらうことで、環境問題に関心をもってもらい、取り組みの大切さを感じてもらいます。

④ 修了証書の授与

- ・ 環境問題の取り組みに対して、修了証書などを授与します。

<事業の点検・評価・見直し>

- ・ こどもたちの環境問題の認識度や進捗状況などを点検し、無理なく積極的に取り組めるように必要に応じて改善策や新たな活動を検討し、次年度以降の活動へと繋げていきます。

<各主体の行動計画>

○小学生

- ・ こどもたちは、環境問題を認識することにより、市が行う環境学習へ積極的に参加し、環境意識の向上に努めます。

○直方市

- ・ 環境授業などを充実するなど環境教育の推進に努め、環境認識を小学校低学年まで拡大し、人材を育成していきます。



<スケジュール>

環境教育プロジェクトのスケジュール表

作業項目	年度	R2 年度			R3 年度			R4~R6 年度 (R2~R3 年度の取組を継続)
		6月	9月	12月	6月	9月	12月	
環境カレンダー作成		■			■		
認定証の授与 (環境カレンダー)				■			■
関係機関との協議		■	■
学習教材の作成等			■	■
環境活動の実施					■	■	
環境授業						■	■
点検・評価・見直し				■			■

(2) 循環型社会形成推進プロジェクト

<行動指針>

「みんなで取り組もう『ごみの減量化』はじめよう『分ければ資源・捨てればごみ』、循環型社会の形成」

<基本方針>

地球に存在する天然資源は限りがあり、日本国内のエネルギー自給率は9.6% (2017年時点)ほどといわれています。しかしながら、わたしたちの社会は依然として「大量生産、大量消費、大量廃棄」が行われ、膨大な量の廃棄物が発生しています。本市はこれまで、ごみの減量化のため資源化の取り組みを始め、年々ごみの量は少しずつ減少してきましたが現在は横ばい状態となっています。まずは事業所や市民へ、ごみの発生・排出抑制について理解を求めながらごみの削減対策を検討・実施していきます。

また、どうしても出てしまうごみについては、積極的にリサイクルを行い、処理しなければならないごみの量を減らしていきます。

今後は市民・事業者・行政が連携し「循環型社会」の形成に向け取り組みます。

<事業の進め方>

○事業者・市民のごみ減量化・資源化意識の高揚

① 事業者・市民への周知

- ・ これまで行ってきた「ごみの減量・分別・リサイクル」出前講座の実施回数を増やし、より多くの市民にごみの減量化・資源化の必要性を伝えていきます。
- ・ 事業活動を行う際、「ごみを発生させない仕組みの構築」に向けた取り組みをお願いしていきます。

② 事業者・市民への実践

- ・ イベント会場等に資源回収ボックスを設置し、資源化できるごみについては、その場で分別し資源化してもらうことで市民の意識高揚を図っていきます。また、環境学習時に分別可能なごみと資源回収ボックスを用意し、こどもたちに分別・資源化の実践をしてもらいます。
- ・ 可燃物中継所などに直接持ち込まれる事業系ごみについて、紙類など資源ごみが含まれている場合は分別・選別するよう指導し、ごみの減量化ならびに資源化を促していきます。

③ リサイクル活動団体奨励金等の見直し

- ・ 現在、地域で集団回収を行っている団体で「新聞、雑誌、段ボール、布類、空き缶（アルミ・スチール）」の品目について回収量に応じた奨励金をお渡ししています。今後は対象品目や奨励金額の調査・研究を行い、更なるごみの分別・資源化や地域活動を支援していけるよう検討していきます。

④ 拠点回収場所の増設

- ・ 直方市内に資源物の拠点回収場所を増やし、より市民が身近に利用できるよう整備していきます。
- ・ 市民がごみの分別・資源化を行う機会を増やすことにより、普段からごみの分別や資源化の意識を高めていきます。

<事業の点検・評価・見直し（PDCA）>

- ・ 市民や事業所の取り組み状況について調査・研究を行いながら、目標年度（令和6年）に、点検・評価・事業活動の見直しを行います。

<各主体の行動計画>

○市民

- ・ 市や民間団体などが主催する環境学習や出前講座へ積極的に参加します。
- ・ 資源拠点回収や資源回収、集団回収などによる有用資源のリサイクルに協力します。
- ・ ごみを出す際には、しっかりと分別し、ごみの減量化・資源化を行います。

○事業者

- ・ 事業活動に伴って発生するごみ量の削減に努めます。
- ・ 過剰包装を控え、ごみの発生しにくい商品開発に努めます。
- ・ ごみを出す際には、しっかりと分別し、ごみの減量化・資源化を行います。

○直方市

- ・ 地域や学校・事業所などと連携して出前講座や環境学習・啓発等の機会を増やします。
- ・ 市民が資源回収に取り組みやすいよう環境の整備を行います。
- ・ リサイクル活動奨励金の品目を調査・研究し、更なるごみ減量化を図りつつ、市民にごみの分別・資源化の意識の高揚を図ります。



<行動スケジュール>

循環型社会形成推進プロジェクトのスケジュール表

作業項目	年度	R2年	R3年	R4年	R5年	目標年 R6年
出前講座・環境学習の実施					
事業者への指導・啓発					
資源拠点回収場所 選考		—————
資源拠点回収場所 増設			—————
リサイクル活動奨励金等に関する調査			—————
リサイクル活動奨励金等に関する変更				—————
点検・評価・見直し						—————